

28PA-am369

ヒューマニズム教育としての人体臓器観察の客観的解析

○大内 秀一¹, 山下 由依亜¹, 小野田 良¹, 中村 武夫¹, 伊藤 栄次¹, 松野 純男¹,
和田 哲幸¹, 八軒 浩子¹ (¹近畿大薬)

【目的】薬学生に対するヒューマニズム教育として、初年次に人体臓器観察を実施している。これまで、自記式無記名アンケートを検証することにより、人体臓器観察が『薬剤師に求められる豊かな人間性と高い使命感を醸成し、生命の尊厳について深く認識するヒューマニズム教育の初段階に有用である』ことを報告してきた。今回、人体臓器観察の過去3年度分のレポートについて、テキストマイニングの手法を用い、客観的な分析を試みた。

【方法】本学医学部解剖学教室の協力を得て、薬学部1年生後期に実施している篤志献体による人体臓器観察終了後に提出させたレポートを対象とし、2015～2017年度分(2015年度:168名分、2016年度:168名分、2017年度:143名分)についてKH Coder 2を用いてテキストマイニングを行い、出現頻度の高い特徴語を抽出した。さらに、共起ネットワーク分析を行った。

【結果・考察】テキストマイニングで分析した結果、2015～2017年度とも「臓器」の出現頻度が最も多く、それに続いて出現頻度の多いものとして、「心臓」「肺」「膜」が抽出された。これらの単語は、「心臓」を中心として共起関係が描画された。この結果は、心臓や肺の構造に「興味・関心・気づき」があったものと思われる。また、「胸腔」を中心として「横隔膜」「腹腔」「肝臓」「胃」などの臓器に共起関係が描画された。この結果から、人体での位置関係を考えながらそれぞれの臓器を観察していたことがうかがえる。一方、臓器の名称を除いて分析した結果、「講義」「観察」「実際」「触れる」「見る」「思う」の出現頻度が上位となり、これらの単語は「臓器」を中心に共起関係が描写された。この結果から、“実際に臓器を見て、触れて、観察し、思う”という人体臓器観察の目的を達成できたと考えられる。